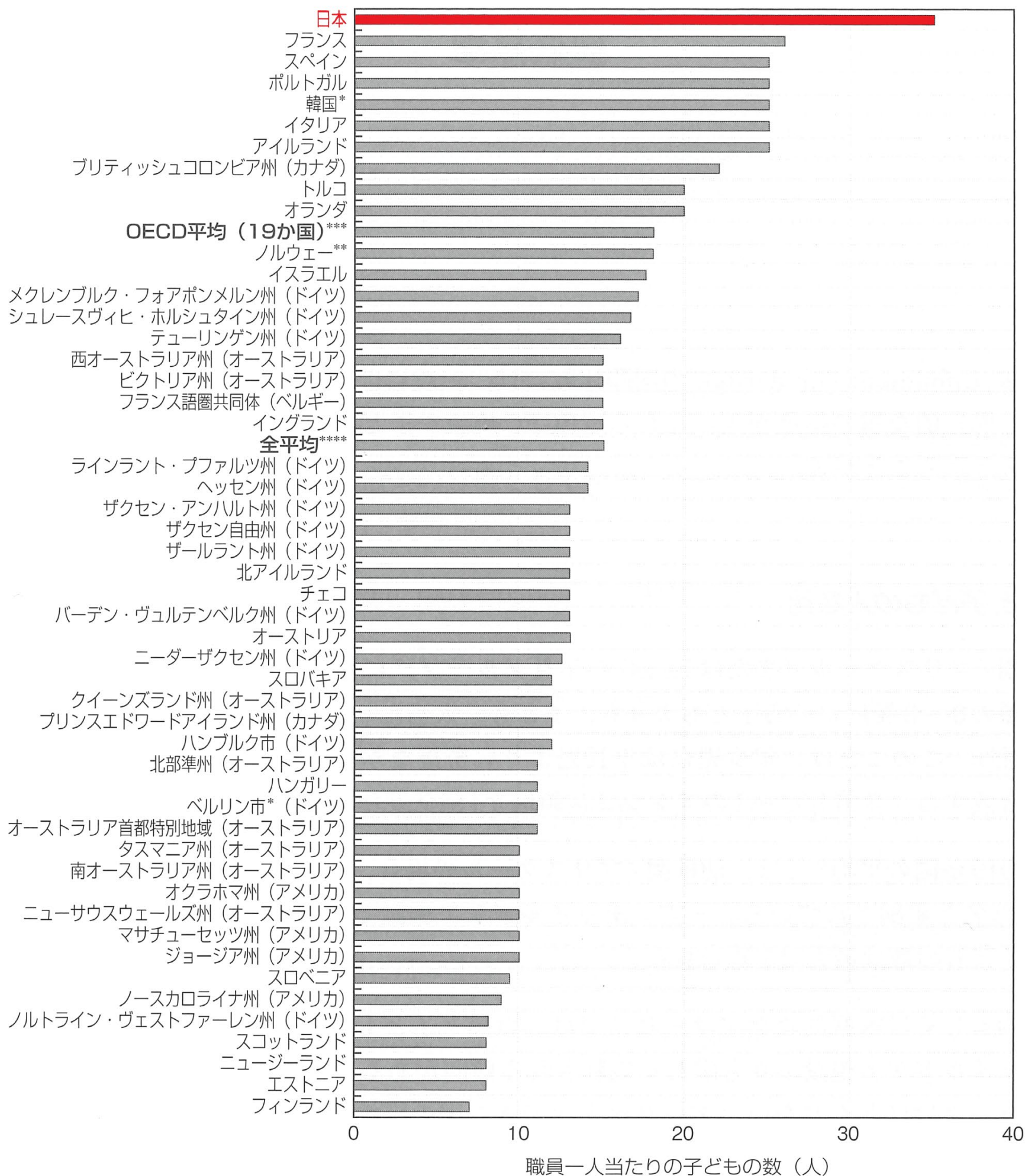


図 1.5 [1/2] 規制で決められている ECEC の職員一人当たりの子どもの数の上限

パネルA：幼稚園/プリスクール（統合型システムの国においては3歳～義務教育開始年齢）の場合



\*職員と子どもの人数比について、年齢ごとに異なる規制を定めている国・自治体については、以下のデータを掲載している。ベルリン市（ドイツ）：1日当たり5～7時間在園している3～6歳児。韓国：4歳児。

\*\*ノルウェーの数値は有資格の幼稚園教諭のみを対象としている。一方、規制によれば園内に他の職員がいれば、職員一人当たりの子どもの数を効果的に減じることができることになっている。ノルウェーの数値は、3～6歳児についての規制による。

\*\*\*OECD19か国の平均値は、以下のOECD加盟国について報告されたデータにのみ基づき算出されており、行政区や準州などは除いている。オーストリア、チェコ、エストニア、フィンランド、フランス、ハンガリー、アイルランド、イスラエル、イタリア、日本、韓国、オランダ、ニュージーランド、ノルウェー、ポルトガル、スロバキア、スロベニア、スペイン、トルコ。

\*\*\*\*全平均値は、図内に含まれる国と区域のデータに基づいている。

注：本調査において、職員と子どもの人数比の平均値を報告した国は、平均値は、規制上の「最低」要件とはならないためグラフには含まれていない。規制上の比率が、複数の職員対子どもの最大数（たとえば、2：15のように）で示されている国の場合、数値は職員一人当たりに換算されている。

2024年2月28日 衆議院予算委員会第一分科会 日本共産党 本村伸子 配布資料

出典：OECD 編著「OECD 保育の質向上白書 人生の始まりこそ力強く：ECECのツールボックス」明石書店 2019年(赤色部分は本村伸子事務所が着色)

STARTING STRONG III : A QUALITY TOOLBOX FOR EARLY CHILDHOOD EDUCATION AND CARE © OECD 2012



# イラストで見る日本の保育士配置基準のイメージ

パネル写し



**0歳児クラス**  
 子ども3人に対して  
 保育士1人



**1歳児クラス**  
 子ども6人に対して  
 保育士1人



**2歳児クラス** 子ども6人に対して保育士1人



※室内あそび



※散歩



### 3歳児クラス 子ども 20人に対して保育士 1人

パネル写し



### 4歳児クラス・5歳児クラス 子ども 30人に対して保育士 1人



※イラストは5歳児クラスの園庭遊び



## 子どもたちにもう1人保育士を！保育士配置基準に関する政策提言

### 「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」に定める 保育士配置基準を以下のように改善すること

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
現行基準	3 : 1	6 : 1	6 : 1	20 : 1	30 : 1	30 : 1
改善基準	2 : 1	3 : 1	3~4 : 1	5~10 : 1	10~15 : 1	10~15 : 1

#### 【提言の理由】

#### ○ 保護者が求める配置基準は今の2倍

「子どもたちにもう1人保育士を！全国保護者実行委員会」では、安心して預けることができる保育士1人が受け持つ子どもの人数について「全国保護者アンケート」を実施しました。全47都道府県より7,316人の回答を得た結果、国基準のおおむね2倍の保育士配置を求めていることが明らかになりました。これは、今の配置基準では安心して預けられないという保護者の声に他なりません。それぞれの年齢別に最も多かった回答が、今回の提言で求める改善基準です。

#### ○ 子どもたちの人権を尊重する保育ができる配置基準に

「子どもたちにもう1人保育士を！全国実行委員会」では、『不適切な保育』を『子どもの人権擁護の観点から望ましくないかかわり』と定義し、「不適切な保育を考えるアンケート」を実施しました。全47都道府県より4,018人の回答を得た結果、「不適切な保育をなくすために必要な対策」として94%もの人が配置基準の改善を挙げており、今の配置基準では子どもの人権を尊重する保育を守ることができず、ほぼすべての保育者が考えています。

#### ○ 保育事故を防ぐために配置基準の改善は不可欠

「教育・保育施設等における事故報告集計」を見ると、重大事故件数は2015年の399件から2022年には1,896件となり、約4.8倍に増大しています。また、死亡と意識不明の合計件数は毎年20件前後で横ばいの状態が続き、減少の兆しが見えていません。地方自治体による検証報告書では、複数の報告書において再発防止策として保育士配置基準の改善が提言されています。子どもたちの命と安全を守り続けるためには、今の配置基準では不十分です。

#### ○ 保育の質は配置基準と直結しています

新潟県私立保育園・認定こども園連盟の調査研究によると、国の配置基準で保育した場合、手厚い配置基準での保育と比べて、子どもにかかる言葉の数が半分に減り、保育士からの言葉がけが多かった子と少なかった子の差が18.7倍もあり、「共感」よりも「指示」が多くなってしまったことが明らかになっています。保育士が、子どもたちの思いに丁寧に寄り添えなければ、あたたかで質の高い保育にはなり得ません。配置基準の改善は必須です。



## ○ このままでは保育士が集まらないのは当然

政府は「配置基準を引き上げると保育士確保が難しく現場に混乱を生じる可能性がある」として、「最低基準」の改善ではなく「加算」での対応に留まると示しています。しかし、有資格者の6割が「潜在保育士」であり保育施設等に勤務していないことから、保育士不足ではなく、「現状の保育施設で働きたい保育士」が不足していると言えます。余裕のない現場と、仕事の責任に見合わない処遇では、保育士が集まらないのは当然です。抜本的な保育士配置基準の改善と、更なる処遇改善を早急に実施し、一刻も早く夢とやりがいのある保育という仕事の本来の姿を取り戻すことが必要です。

## あまりに過酷な日本の配置基準 ～OECDも勧告 世界標準は1クラス15人～

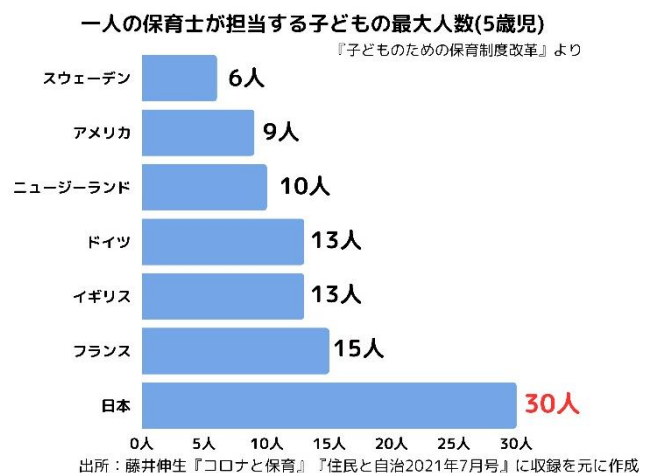
大宮 勇雄（福島大学名誉教授）

今、世界的に「保育の質」への関心が高まっている。乳幼児期の生活や経験がその後の人生を切り開いていく上で非常に重要だということが、調査研究で明確になってきたからである。そうした関心の高まりを受け、OECD（先進諸国の経済財政政策にかかわる政府間協力組織）は、日本を含む9か国の施設長・保育者を対象に、保育の質に関する初めての国際調査を行っている（3歳以上児を保育する施設、日本では保育所・幼稚園・認定こども園が対象）。

その結果、日本の保育があまりに過酷な条件の下で行われていることが明らかになった。保育者の離職率は22%で最悪、保育者の週当たりの平均労働時間（時間外・持ち帰りを含む）は50.4時間とこちらも最長。アイスランドやノルウェーなど欧州では35時間前後であるのに比べると、異常な長さである。仕事が多く、疲れが蓄積し余裕がなく、職場や保護者との話し合いをする時間もとれない状態で、子どもとのかかわりへの悪影響が懸念されるレベルである。

保育の質に悪影響を及ぼす要因として、この調査がもっとも懸念しているのは1クラスの人数の多さである。3歳児以上のクラスの人数は、日本は平均で23人、イスラエル29人、チリ24人について3番目、他の国はいずれも15人から17人であるのに比べると非常に多くなっている。同調査によると、いずれの国においても1クラスの人数が多くなるほど、保育者は子どもに対する説明と指示、個別の子どもへの対応やフォローの回数が多くなり、それに反比例するように、一人または少人数の子どもとかがわったり、保育の内容をとともに楽しむのがむずかしい傾向があったと報告している。乳幼児期の子どもの育ちには、学校のような1対多数のコミュニケーションは不適切で、親密な少人数でのやりとりによって深く多くのことを学べることが明らかになっている。そのことを踏まえ、OECDは日本を含めた3か国にクラスの少人数化を勧告している。

また、保育はさまざまな「想定外」に対応する仕事である。したがって、ほとんどの国では、安全面からも子ども理解のためにも、複数の保育者で助け合って担任するのが常識となっている。3歳以上で言えば、「1クラスに多くても子ども15人、少なくとも保育者二人」を確保しなければ、保育の質を保つことはできないのである





## 子どもたちにもう1人保育士を！ 全国保護者アンケート調査結果概要

### アンケート調査概要

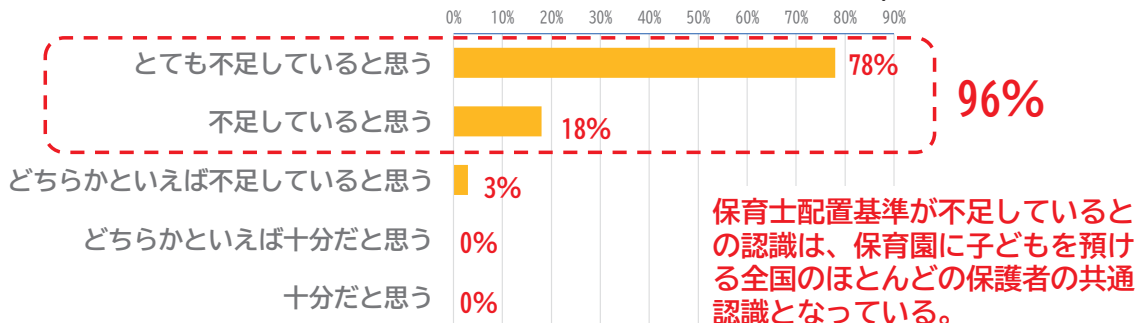
調査方法	インターネット上での回答
調査期間	2023年5月26日（金）～11月5日（日）
調査対象	全国の保育施設を利用している（していた）保護者
回答数	全国47都道府県より 7,316件

※各項目の割合は小数点以下を四捨五入しているため100%にならない場合があります。  
※記述回答は一部要約するなど編集している箇所があります。

### 子どもたちにもう1人保育士を！全国保護者実行委員会

## 配置基準が不足しているという思いは 保育施設を利用している（していた）保護者の共通認識

【問1】現在の日本の配置基準についてどのように感じましたか？（7,316人回答）

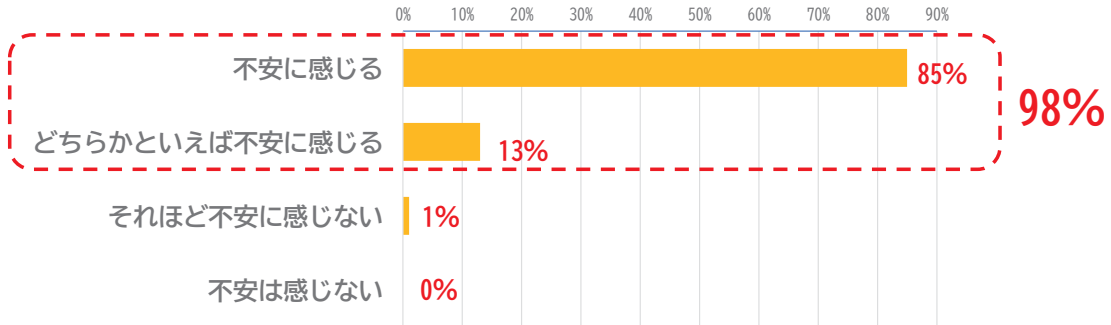


- 「とても不足していると思う」「不足していると思う」を合わせると全体の96%。  
「どちらかといえば不足していると思う」も合わせると99.7%とほぼ100%に。



## 現状の配置基準に不安を感じている 保護者が9割以上

【問2】保育者向けのアンケート（下段ページ参照）に寄せられた意見について不安に感じますか？（7,316人回答）



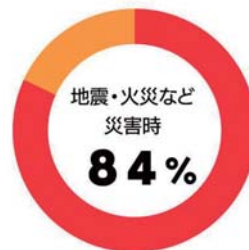
- 「不安を感じる」「どちらかといえば不安を感じる」を合わせると98%の保護者が不安を感じながらも保育園に子どもを預けていることがわかる。

## 【参照】2022年 保育士アンケートの結果より

『国の保育士配置基準では、子どもの命と安全を守れない』  
 と思う場面を選んでください。(あてはまるすべてを選択)

※2022年2月4日～3月31日に愛知の実行委員会が保育者向けのアンケート調査を実施し、2,648件の回答を得た。

※「国の保育士配置基準では子どもの命と安全を守れないと思う場面」の設問に対し、災害時やお散歩中、プールや水遊び等の日常の保育でも守れないという回答が大勢を占めた。本アンケート調査の【問2】についてはその結果を示したうえで保護者に回答を求めた。



保育士2,648人が回答

地震・火災など災害時…	84%
防犯上……………	59%
食事の場面……………	35%
午睡時……………	23%
プールなど水遊び……………	58%
お散歩……………	60%
園庭・室内での活動……………	33%
早朝夕刻の保育……………	43%
その他……………	3%
未回答・不明……………	5%

食事の場面やお散歩でも？  
普通の生活じゃないの！

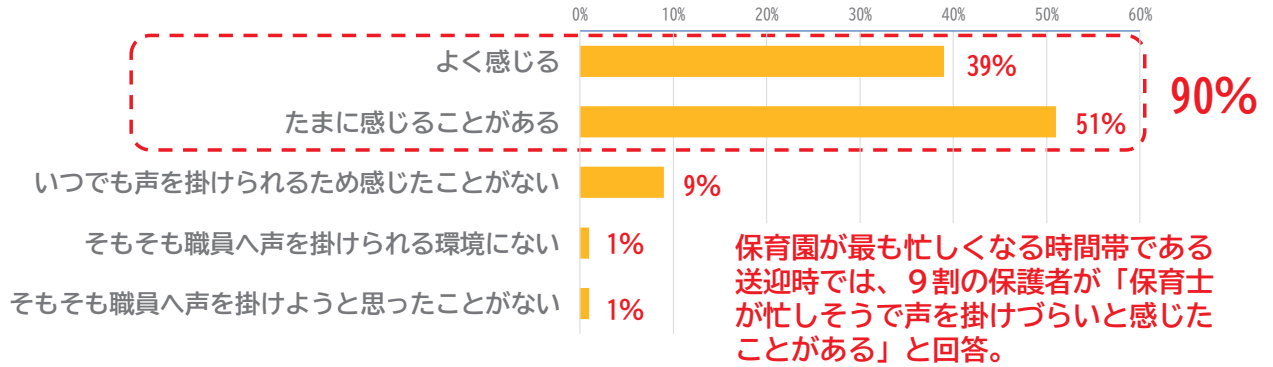


子どもたちにもう1人保育士を！～70年以上変わらない保育士配置基準を考えるアンケート～  
 集計結果の最終報告より引用



## 送迎時に保育士に声を掛けづらいと感じた経験がある保護者は9割

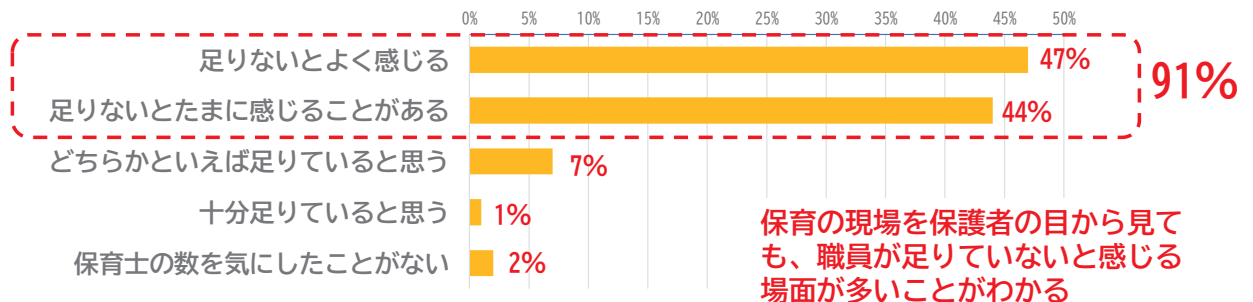
【問3】 保育園の送迎時に保育士が忙しそうで声を掛けづらいと感じたことがあります



- 「よく感じる」「たまに感じることもある」を合わせると90%。

## 保育園の職員の数が足りないと感じている保護者が9割

【問4】 子どもを保育園に預けるなかで職員が足りていないと感じたことはありますか？



- 「足りないとよく感じる」が47%、「足りないとたまに感じることもある」が44%。保育士が足りないと感じている保護者は91%に及ぶ。



## 保育園のあらゆる場面で保護者は保育士不足を実感

【問5】問4で「足りていない」と回答された方で具体的な場面があれば記入してください。  
 (3,767人が記述回答)

職員不足を感じる具体的な場面	人数	率	職員不足を感じる具体的な場面	人数	率
保育士の様子から保育士不足を感じる状況など	2,061人	55%	排泄・トイレ・着替えなどに関わる場面	901人	24%
朝夕の送迎時	1,514人	40%	遊びの場面、遊びが抑制されている場面	880人	23%
怪我・事故・危険・安全面への不安	1,129人	30%	配置基準への憤り・国への改善要望	854人	23%
保育士と子どもとの関わりの様子	1,113人	30%	保育士から保護者への報告・連絡	852人	23%
保護者からの相談・コミュニケーション	1,103人	29%	子どもが泣いている場面	842人	22%
子ども同士のトラブル、喧嘩など	915人	24%	支援の必要な子どもへの対応	766人	20%

## 保育園のあらゆる場面で保護者は保育士不足を実感

【問5】問4で「足りていない」と回答された方で具体的な場面があれば記入してください。  
 (3,767人が記述回答)

職員不足を感じる具体的な場面	人数	率
園外活動、お散歩や遠足など	731人	19%
園内活動	724人	19%
給食、おやつ、ミルクなど食事の場面	713人	19%
就労などの保護者の権利が制限される状況	697人	19%
プール	670人	18%
その他	730人	19%

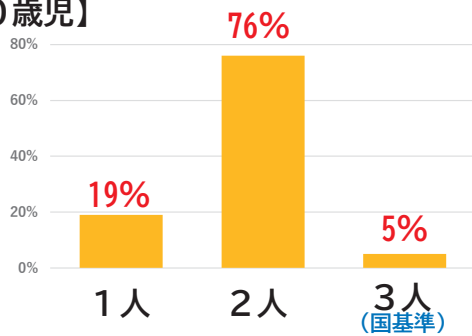
- 最も多かった「保育士の様子から」への記述では「保育士さんたちがとても疲れているように見える」「休憩もまともにとれていない様子を見た」などの声があった。
- 朝夕の送迎時については「もう少し保育士と話がしたい」との意見。「保護者からの相談」と重なる部分も多く、保護者には保育園での子どもの様子や子育ての悩みを保育士に相談したいとの思いが強くある。



## 保護者が安心できる保育士の配置数は国基準の約2倍

【問6】保育士1人がみる子どもの人数はどのくらいが安心できますか？（7,316人回答）

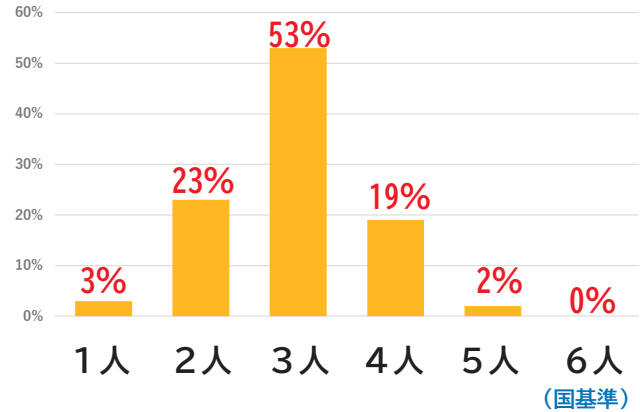
【0歳児】



保護者の安心できる配置基準は  
 保育士1人に対して子ども平均1.85人

現行の国基準に対し1.62倍必要と感じている

【1歳児】

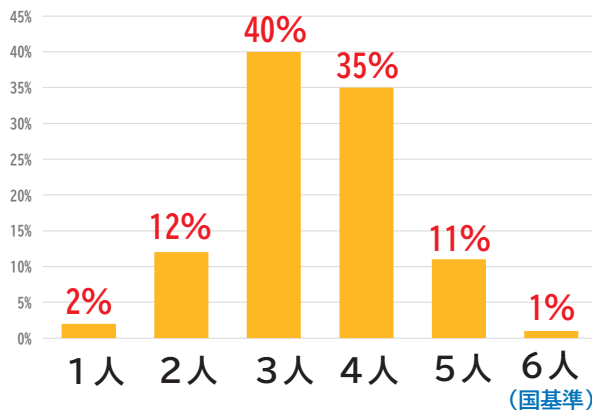


平均2.96人 国基準に対し2.03倍

## 保護者が安心できる保育士の配置数は国基準の約2倍

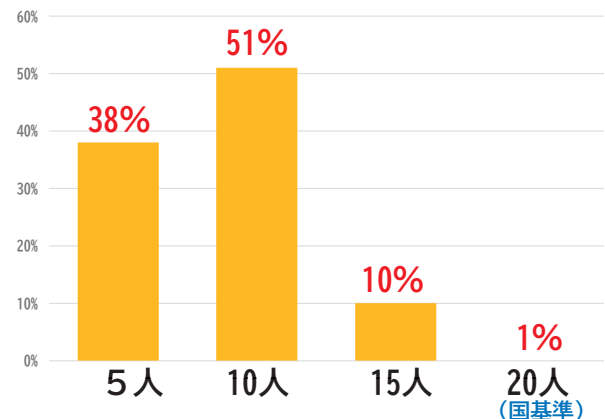
【問6】保育士1人がみる子どもの人数はどのくらいが安心できますか？（7,316人回答）

【2歳児】



平均3.45人 国基準に対し1.74倍

【3歳児】



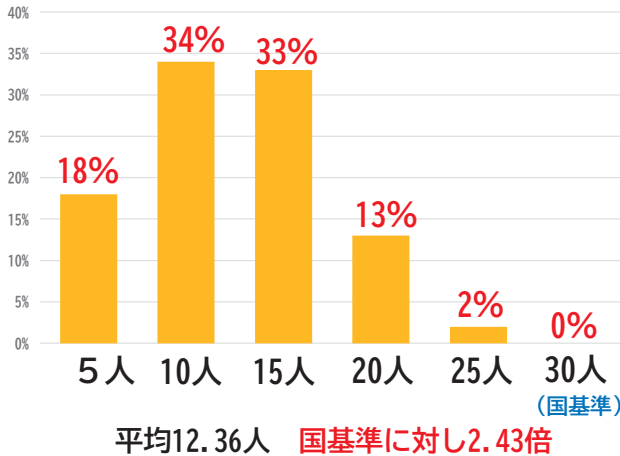
平均8.62人 国基準に対し2.32倍



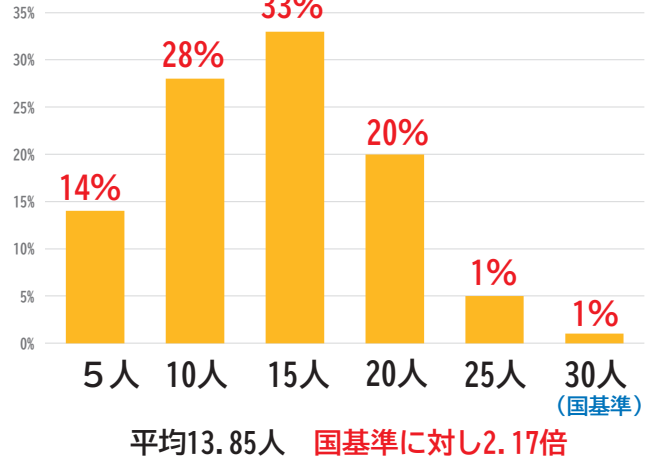
## 保護者が安心できる保育士の配置数は国基準の約2倍

【問6】保育士1人がみる子どもの人数はどのくらいが安心できますか？（7,316人回答）

【4歳児】



【5歳児】



## 子どもも保育者も保護者も喜び合える保育体制を

### 全体の自由記述より抜粋

- 子どもに対して必要な人数だけでなく、余裕を持って保育士さんがいることで、クラスや職員、保護者のサポートも手厚くできて、子育て支援、親支援にもつながると思う。保育士さんの負担を軽減させることで、保育士さんが元気に働け、子ども達を安心して預けることができると思う。そのためには、国が責任を持って財源を確保し、最低基準の改善をする事が必要だと思う。（高知県）
- 何かあってから対応するのでは遅いと思います。自分の子どもの面倒を見るのが精一杯な親がほとんどの中、先生たちはその何倍もの数の子どもたちを見てくれています。親ですら子どもに怪我をさせたり、危険な目に合わせたりすることがあるのに、「先生はプロだから」という理由でたくさんの子どもの子どもを見ている中で起こってしまった問題で責任を問われるのはおかしいと思います。防いでくれた怪我や危険の方が何倍も多いはずなのに、それが知られることはありません。先生になりたいと思う人がこれ以上減らないよう、心身ともに安心して保育ができる環境を整えて欲しいです。（愛知県）



## 子どもたちにもう1人保育士を！ 不適切な保育を考えるアンケート調査結果概要

### アンケート調査概要

調査方法	インターネット上での回答
調査期間	2023年6月23日（金）～11月5日（日）
調査対象	全国の保育施設で働く保育者
回答数	全国47都道府県より 4,018件
属性項目	勤務年数・施設の種類・施設の運営形態・主な仕事の担当

※ この調査での『不適切な保育』とは「子どもの人権擁護の観点から望ましくないと考えられるかかわり」としています。

※各項目の割合は小数点以下を四捨五入しているため100%にならない場合があります。

※記述回答は一部要約するなど編集している箇所があります。

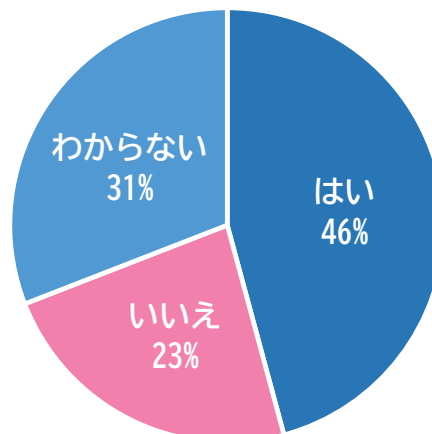
### 子どもたちにもう1人保育士を！全国実行委員会

## 不適切な保育を起こしかねない「不安」約8割 緊張感・危機感のもと保育にあたっている

【問1】自らも「不適切な保育」を  
起こしかねないと思いますか？（4,018人回答）

不適切な保育を起こさないと否定する  
「いいえ」は23%にとどまり、  
「はい」「わからない」の合計77%が不適切な保育をしないと断言できないという不安を感じていることが読み取れる。

他の設問回答や自由記述から、  
「はい」回答者には、子どもの要求にこたえきれていない現状への憂いを感じられ、  
「いいえ」回答者からも、現状に満足していないことがうかがえる。



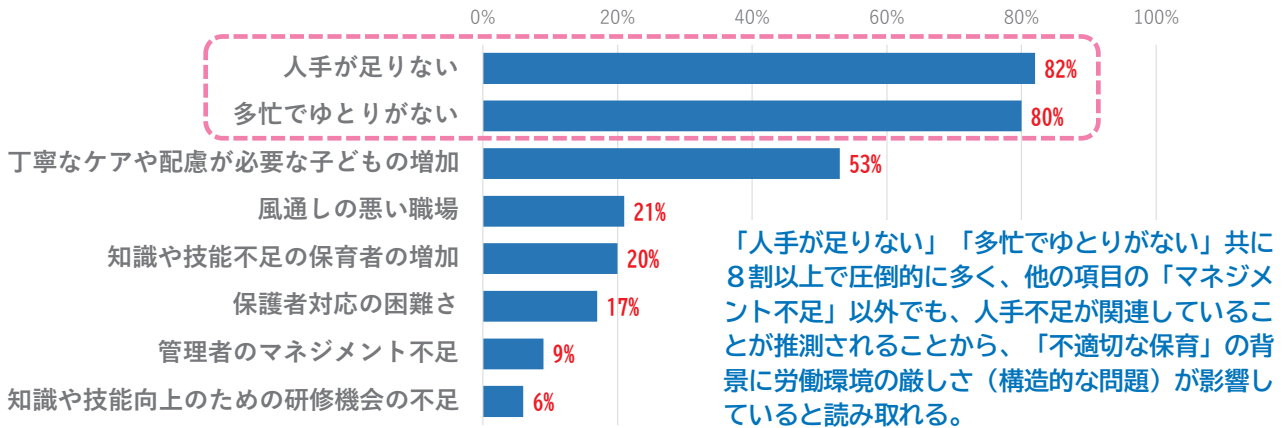
「静岡新聞」保育者アンケート調査においても8割以上が「どの園でも起こりうる問題」と回答しており、緊張感・危機感のもとで保育にあたっていることが考えられる。

※ 「静岡新聞」静岡県内保育者アンケート調査（2023年3月中旬～4月上旬）において、裾野市の保育園での「不適切な保育」については「園特有のケースと考える」は15.7%にとどまり、「どの園にも起こりうる問題と考える」が84.3%となっている。

<https://www.at-s.com/news/article/shizuoka/1232019.html>

## 「人手が足りない」「ゆとりがない」共に8割以上 「不適切な保育」背景に労働環境の厳しさが影響

【問2】「不適切な保育」が起こる”背景”に何があると思いますか？（4,018人が複数回答）

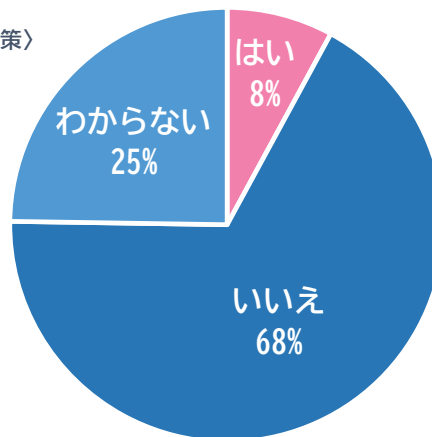


## 「国の対策で安心できない」が約7割 国の動向などに詳しい園長「安心できない」約9割

【問3】「不適切な保育」を防ぐための国の対策で安心して保育ができると思いますか？（4,018人回答）

- ※〈虐待や不適切保育を防ぐため国が示した主な対策〉
- ・指導計画は長期・短期の2種類でよい
  - ・児童の記録書類の項目の見直し
  - ・会議の短時間化や業務配分の改善
  - ・行事などの準備業務の改善
  - ・自治体による巡回支援の強化

「いいえ」約7割で、国の対策で不十分と考える保育者が多いことがわかる。また、国の動向や制度について詳しい園長や勤務年数の長い保育者ほど「安心できない」傾向が高くなっている。

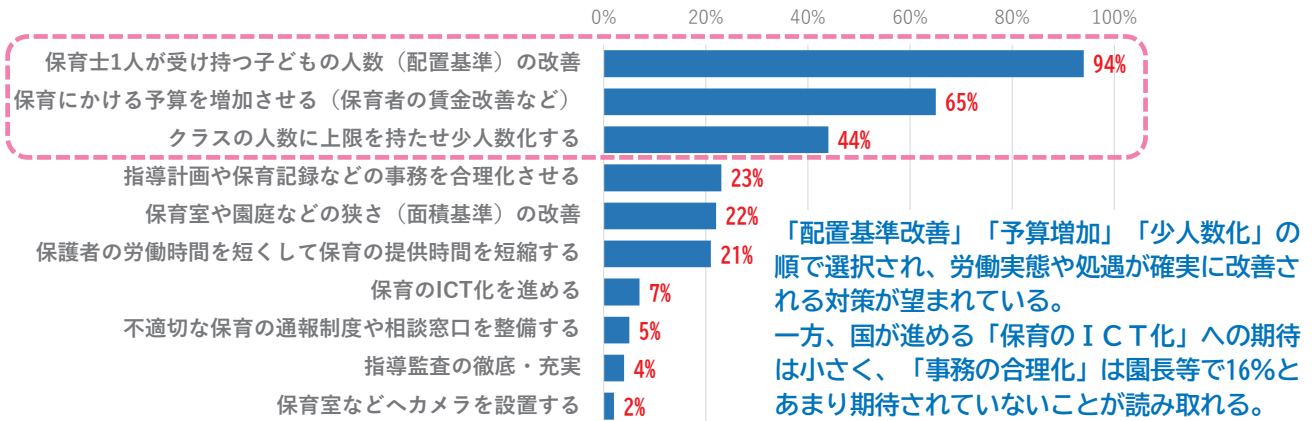


属性別	仕事	勤務年数
	園長等	15年以上
はい	1.7%	4.6%
いいえ	87.4%	77.0%
わからない	11.0%	18.3%



## 「配置基準改善」「予算増加」などが最も望まれている 「事務の合理化」「保育のICT化」は期待されていない

【問4】「不適切な保育」をなくすために”必要な対策”は何だと思いますか？  
 (4,018人が複数回答)



## 「異次元の少子化対策」では良くならない9割 国の動向などに詳しい園長「良くならない」98%

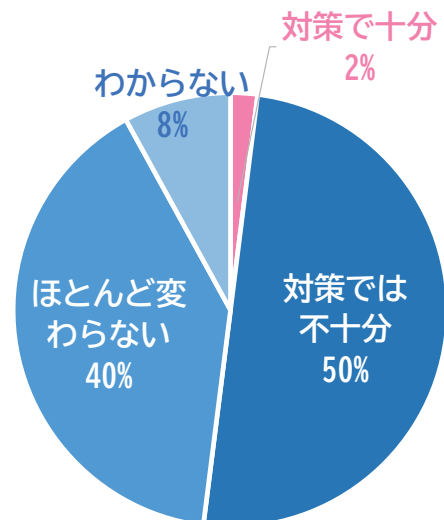
【問5】政府の「異次元の少子化対策」で、  
 保育の質が向上し、保育現場の課題は  
 解決すると思いますか？ (4,018人回答)

※〈異次元の少子化対策〉

- ・保育士の配置基準（1歳児5：1、4・5歳児25：1）を改善  
 （当面は基準を変えず、基準より多く配置した場合に運営費を加算）
- ・保育士等の更なる処遇改善を検討
- ・「こども誰でも通園制度（仮称）」

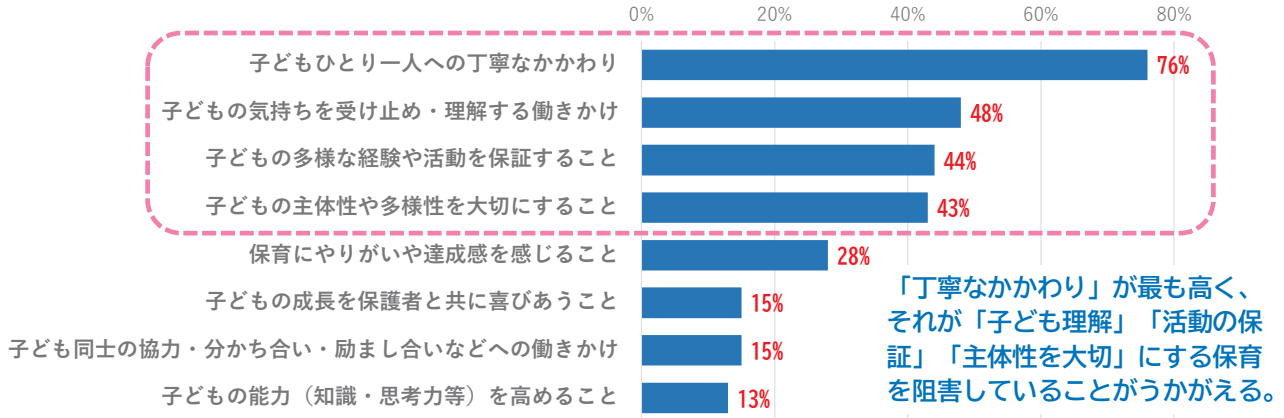
※〈課題〉「不適切な保育」、重大事故の防止、保育人材の定着・育成など

「対策で不十分」「ほとんど変わらない」の合計が9割と「異次元の少子化対策」では「良くならない」と感じている保育者が多い。また、園長等の合計は98%と全体回答よりもさらに高く、国の動向などに詳しい園長ほど「良くならない」と感じていることがわかる。



## 「丁寧なかかわり」ができないことが「子ども理解」「活動の保証」「主体性を大切」などの保育を阻害

【問6】いまの保育環境により、保育として十分に行えていないと思うものは何ですか？  
 （4,018人が複数回答）



## 属性別（主な仕事の担当・勤務年数）の特徴（抜粋）

【問5】政府の「異次元の少子化対策」で、保育の質が向上し、保育現場の課題は解決すると思いますか？

	全体	主な仕事の担当（抜粋）				勤務年数		
		0～2歳児	3～5歳児	フリー	園長等	～5年	5～15年	15年～
対策で十分	1.9%	2.4%	1.8%	1.2%	0.4%	3.7%	1.8%	0.9%
対策では不十分	50.2%	51.8%	48.4%	52.5%	49.7%	44.8%	51.4%	52.2%
対策ではほとんど変わらない	39.6%	37.7%	39.6%	38.2%	48.0%	36.7%	38.7%	42.0%
「対策では不十分」 + 「対策ではほとんど変わらない」	89.8%	89.5%	88.0%	90.7%	97.7%	81.5%	90.1%	94.2%
わからない	8.3%	8.1%	10.2%	8.1%	1.9%	14.8%	8.1%	4.9%

国の動向や制度に詳しい園長や勤務年数が長い保育者ほど、国の対策に懐疑的な傾向が高くなっている。

【問6】いまの保育環境により、保育として十分に行えていないと思うものは何ですか？（あてはまるもの3つを選択）

	全体	主な仕事の担当（抜粋）				勤務年数		
		0～2歳児	3～5歳児	フリー	園長等	～5年	5～15年	15年～
子どもひとり一人への丁寧なかかわり	76.3%	77.9%	80.7%	77.4%	64.8%	80.0%	78.4%	72.4%
子どもの気持ちを受け止め・理解する働きかけ	48.4%	48.8%	47.9%	45.9%	48.9%	49.0%	49.3%	47.2%
子ども同士の協力・分かち合い・励まし合いなどへの働きかけ	14.9%	12.5%	17.3%	17.8%	13.3%	16.2%	14.1%	14.9%
子どもの多様な経験や活動を保障すること	44.2%	45.8%	42.8%	48.1%	42.0%	41.8%	45.7%	44.1%
子どもの主体性や多様性を大切にする	42.9%	45.5%	42.7%	40.3%	44.3%	37.9%	43.9%	44.9%
子どもの能力（知識・思考力等）を高める	13.3%	15.0%	15.4%	11.6%	7.0%	17.9%	13.9%	10.2%
子どもの成長を保護者と共に喜びあう	15.2%	12.1%	14.2%	14.1%	21.9%	12.4%	12.3%	19.5%
保育にやりがいや達成感を感じる	27.8%	25.4%	24.7%	26.4%	41.4%	25.0%	25.5%	31.6%
その他	1.8%	1.5%	0.9%	1.9%	3.1%	1.4%	1.5%	2.3%

「保育にやりがいや達成感を感じる」について、園長が高くなっている背景には、望む保育ができないなどの理由で離職する保育者を見てきているからではと考えられる。



## ○ 保育事故を防ぐために配置基準の改善は不可欠

子ども家庭庁のホームページ「教育・保育施設等における重大事故の再発防止のための事後的な検証について」において、地方自治体による公表済みの検証報告書が39事例掲載されています。このうち少なくとも7つの報告書では、重大事故の再発防止策として保育士配置基準等の改善が提言されています。この間、配置基準等の改善がなされないなか、保育施設等の重大事故件数は2015年399件から2022年1,896件と約4.8倍に増大しており、死亡と意識不明の合計件数についても毎年20件前後で横ばいの状態となり、いずれも改善の兆しが見えていません。さらに、2023年9月に公表された「桑名市不適切保育等の再発防止に関わる第三者委員会の報告書」には、「保育の実践現場では、保育士1人が担当する子どもの数が多く、全国的にみても、このことが保育士等の余裕のなさにつながり、子どもの権利を保障する丁寧な保育を難しくさせていることが従来から指摘されている。(中略)この基準では、不適切保育を防止するという観点はもとより、災害時や防犯の観点からも子どもの安心・安全を守ることに困難が予想される。」と記され、保育士の増員が提言されています。不幸な事例に真摯に向き合い検証された報告書を活用すれば、重大事故や不適切な保育は確実に防ぐことができます。この取り組みこそが子どもの最善の利益を保障することにつながります。保育施設における子どもの権利を保障するためにも、命や安全が確実に守られ、丁寧な保育の実践が可能となる保育士配置基準等の改善が直ちに必要です。

### 保育施設重大事故等の検証報告で保育士配置基準改善が提言された事例

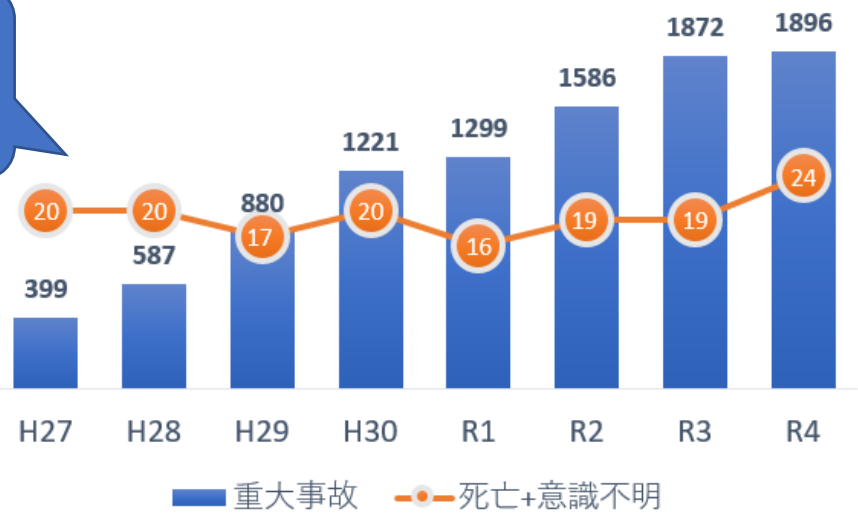
自治体	事案の概要	再発防止に向けた提言（抜粋）
三重県 桑名市  不適切保育 (R5.9)	令和5年3月、桑名市内の私立認定子ども園における不適切保育事案を桑名市が認知し、県や市の調査により、不適切保育は過去に遡って発生していたことが認められた事案。	現在の国の定める保育士配置基準〔省略〕では、不適切保育を防止するという観点はもとより、災害時や防犯の観点からも子どもの安心・安全を守ることに困難が予想される。そこで本委員会では、市独自の保育士配置基準を設定し、保育現場に子どもの保育を行う保育士等を増やすことを提案する。具体的には、定員に応じて保育園等あたり1人～2人の正規職員を配置できるよう市の単独事業として実施することを提言する。
愛知県 一宮市  重大事故 (R5.5)	令和4年6月、一宮市の市立保育園において、園庭での保育中に5歳の園児が他の園児とぶつかり、その勢いで地面に後頭部を打ちつけ、救急搬送、園児は意識不明の重体となった事案。（退院後、介助が必要な状態が継続）	国の配置基準を満たしていることで、保育士が充足していると捉えるのではなく、より安全に保育をするために適正な保育士の配置基準等の人的支援を検討することが求められます。
広島県 広島市  重大事故 (R4.12)	令和4年4月、広島市西区の市立保育園において、5歳の園児が園庭での保育中に行方がわからなくなり、保育園からほど近い河川の砂地で意識がない状態で発見され、その後死亡が確認された事案。	3歳児の保育をより安全に充実させ、保育士の負担軽減を図るため、広島市が独自に配置基準を改善（20対1から15対1へ）すること。さらに、厳しい労働環境である保育現場の実態を踏まえ、3歳児を始めとする保育士の配置基準全体の見直しを行うよう国に要望すること。

岡山県 岡山市 重大事故 (R4.11)	令和3年10月、岡山市内の社会福祉法人が運営する認可保育園の園庭において複合遊具で遊んでいた <b>2歳の男児</b> が重体となり、その後11月に <b>死亡</b> となった事案。	市は、保育の多様な活動を保証していくために、園外活動時の見守りなど保育の補助業務を行う者の活用を保育施設へ促すこと。また、 <b>人員体制が充実する制度となるよう配置基準の見直しについて国に働きかけを行うこと。</b>
北海道 芽室町 重大事故 (R4.3)	令和3年6月、芽室町内の私立認可保育所において、 <b>1歳9か月の児童</b> が <b>給食誤嚥により窒息状態</b> となり、 <b>半年間の入院</b> となった事案。	今回の事故を踏まえ、特に発達に差がある低年齢児に対する <b>保育士配置基準の見直し</b> と、安定した保育運営に向けた公定価格への反映など、保育の質と安全性の確保について、 <b>国に対して要望すること。</b>
大阪府 大阪市 重大事故 (R3.1)	令和2年2月、大阪市内の認可保育所において、 <b>1歳2か月の男児</b> が給食中に食べ物を喉に詰まらせたため、園における救命処置と並行して119番通報し、病院に搬送されるも、搬送先の病院で <b>死亡</b> が確認された事案。	事故防止対策が適切に講じられるよう、次の通り、 <b>国への提案・要望を行うこと。</b>  ○配置基準の見直し等 ・安全・安心な保育環境を確保できるよう、 <b>低年齢児（0歳児、1歳児）の保育士配置基準を改善すること。</b> ・さまざまな職種の専門性を活かし、事故防止対策を強化するために、 <b>看護師、栄養士の配置を必須とすること。</b>
東京都 板橋区 重大事故 (R1.8)	平成29年9月に、板橋区内の認可保育施設において、 <b>1歳2か月の男児</b> が、午睡中に心肺停止状態で発見され、応急処置を施された後に、医療機関に救急搬送されたものの、その後、 <b>死亡</b> が確認された事案。	<b>国、都は</b> 、現在の保育現場の業務量や労働環境などに鑑み、 <b>保育士の年齢別配置基準の見直しを行うこと。</b>  <b>区は</b> 、機会を捉え、 <b>国や都に対し、保育士の年齢別配置基準の見直しを要請すること。</b>
埼玉県 川口市 重大事故 (H29.2)	平成27年9月、川口市内の認可外保育施設において、 <b>生後3か月の男児</b> が保育中に心肺停止状態で発見され、翌日に <b>死亡</b> となった事案。	保育士配置基準の見直し 安全・安心な保育体制を確保するため、 <b>国が定める保育士配置基準について、乳児を中心に基準の見直しを国に求めること。</b>

※ 不適切保育再発防止の報告書は桑名市の下記 URL に掲載 <https://www.city.kuwana.lg.jp/documents/10340/houkokusyo.pdf>  
 ※ 重大事故検証報告はこども家庭庁の下記 URL 内に掲載 <https://www.cfa.go.jp/policies/child-safety/effort/kensho/>

### 保育施設等の重大事故・死亡 + 意識不明の推移

配置基準が改善されないなか、重大事故件数は右肩上がり、死亡 + 意識不明件数は横ばい。



こども家庭庁「教育・保育施設等における事故報告集計」公表資料より作成